

【イベント案内】

県立陣馬自然公園センター

- 写真展
「第2回神奈川県立陣馬相模湖自然公園の写真展」
内容：一般の方が陣馬相模湖自然公園内で撮影し、ご応募いただいた写真を展示しています。自然公園の素晴らしさ・撮影した方の想いを感じていただければ幸いです。
展示期間：平成23年10月1日(土)～平成24年1月31日(火) 休館日にご注意ください。

県立秦野ビジターセンター

- 企画展『岩石と化石からみた丹沢の生い立ち』
内容：秦野盆地を流れる水無川は、表丹沢のいくつもの峰を源流としています。この川の石ころが語る丹沢山地の驚きの生い立ちを展示ご紹介します。
開催期間：平成23年10月1日(土)～平成24年1月9日(月・祝)
- 自然教室『丹沢からのメッセージ～水無川の石ころ実物図鑑づくり～』
内容：川の石ころが語る丹沢山地の驚きの生い立ちを野外観察や図鑑づくりを通して探ります。
日時：平成23年11月26日(土) 9:30～16:00頃
場所：秦野ビジターセンターとその周辺
対象：小学5年生以上 ※小学生は保護者同伴
定員：30名 ※応募者多数は抽選
締切：平成23年11月15日(火)
参加費：1人1,700円(保険代、材料費込み)
申込み：往復はがきに行事名・参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号を記入の上、締切日必着で秦野ビジターセンターまで。
【展示協力・自然教室講師】
門田 真人氏
(神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員)
(神奈川県学協会 会長)

環境省箱根ビジターセンター

- 特別展『箱根のハイキングコース』
内容：箱根のハイキングコースの自然、景観、歴史等の魅力を紹介します。
開催期間：平成23年10月28日(金)～12月25日(日)
- 箱根地域自然に親しむ運動
『植物を守る 落ち葉の布団づくり』
内容：箱根の紅葉を楽しむ観察会をしながら、登山道保全と箱根湿生花園の霜除け(落ち葉布団)づくりのボランティア体験!
日時：平成23年11月25日(金) 9:00～15:30
集合・解散：箱根ビジターセンター
定員：20名 応募者多数の際は抽選
参加費：1,500円(保険代など)
締切：平成23年11月7日(月)
申込み：行事名、参加者全員の氏名、住所、年齢、性別、電話番号を記入のえ往復はがき又はメール(hakone-vc@kanagawa.email.ne.jp)で箱根ビジターセンターまで。

2011

11月号
No.93

～自然公園から季節のたよりをお届けします～
神奈川県自然公園だより

丹沢大山国定公園 県立丹沢大山自然公園 県立陣馬相模湖自然公園 富士箱根伊豆国立公園

鳥見でのんびり

宮ヶ瀬ビジターセンター



餌を探すヒドリガモ (雄)

宮ヶ瀬には秋～冬にかけて様々な冬鳥たちがやってきます。その中で観察しやすい鳥を紹介します。北方から渡ってくるカモの仲間、ヒドリガモです。雄は顔の真ん中がクリーム色なので、横から見るとおでこに白いコブがあるように見えます。クリーム色を強調するかのよう茶色い頭のヒドリガモは、漢字で「緋鳥鴨」と書きます。調べてみると「緋」とは色のことで茶色よりも赤く見える色でした。この色のヒドリガモは秋の日差しと相まって落ち着いた秀麗な雰囲気が漂います。

宮ヶ瀬湖畔園地の親水池では、ヒドリガモが紅葉を映した水面を泳ぐ姿を見ることが出来ます。並んで泳いだり餌を探しに潜ったりするのも、なんだか自由ののんびりしているかのようです。そして、ヒドリガモだけの群れだと思って観察していると、オオバンやヨシガモなど違う鳥が混ざっていることもあります。よく探してみましよう。

秋の暖かさの中でカモ達を見ていると、時間がゆっくり過ぎていくように感じられます。宮ヶ瀬の湖畔で、鳥を見ながらのんびりと過ごしてみたいいかがですか?(吉田)



ヒドリガモの雄と雌



ヨシガモ (左) とオオバン (右)



緋色

自然公園へ出かけよう



休館日のお知らせ
県立ビジターセンター：月曜日(祝日開館)、祝日翌日(土日開館)
1～3月第2木曜日(祝日開館)
年末年始(12/29～1/3)
箱根ビジターセンター：6月第2水曜日とその翌日、
年末年始(12/28～1/1)

県立宮ヶ瀬ビジターセンター

〒243-0111 清川村宮ヶ瀬940-15
Tel046-288-1373 Fax046-288-1162
開館時間 9:00～16:30
(1/4～2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/miyagase/>

県立秦野ビジターセンター

〒259-1304 秦野市堀山下1513
Tel0463-87-9300 Fax0463-87-9311
開館時間 9:00～16:30(通年)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/hadanovc/>

県立陣馬自然公園センター

〒229-0201 相模原市緑区佐野川659-3
Tel0426-87-5270 Fax0426-87-5270
開館時間 9:00～16:30
(12/1～3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/jinba-vc/>

県立丹沢湖ビジターセンター

〒258-0202 足柄上郡山北町玄倉515
Tel0465-78-3888 Fax0465-78-3777
開館時間 9:00～16:30
(1/4～2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawakvc/>

県立西丹沢自然教室

〒258-0201 足柄上郡山北町中川1867-2-9
Tel0465-78-3940 Fax0465-78-3940
開館時間 8:30～16:30
(12/1～3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/nishitanzawa/>

環境省箱根ビジターセンター

〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根日礼場164
Tel0460-84-9981
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
<http://www.mmjp.or.jp/HakoneVisitorCenter/>

編集・発行：公益財団法人 神奈川県公園協会 〒231-0027 横浜市中区扇町3-8-8関内ファーストビル6階
TEL: 045-651-0931 FAX: 045-651-0932
公園課(自然公園担当): sizenkouen@kanagawa-park.or.jp ホームページ <http://www.kanagawa-park.or.jp/>
後援：丹沢大山自然再生委員会

神奈川県公園協会

検索

三つ目の台風は

西丹沢自然教室

今年三つの台風の影響が丹沢にありました。箒沢での累加雨量は、台風6号の影響(7月20日)では655ミリ、台風12号の影響(9月5日)では620ミリ、台風15号の影響(9月21日)では354ミリでした。どれも記録的な大雨でした。



沢は増水して、木の橋が流された

これらの台風の影響では、ビジターセンターが臨時休館になったり、県道が通行止めになったりしました。しかし、それよりも丹沢山中の被害が甚大で、沢沿いの登山道では、木の橋が流され、斜面崩落によって登山道の崩れや、深くえぐれたとこ

ろもありました。西丹沢は沢沿いの登山道が多いので、台風後は登山道の問い合わせも多く入りました。

三つ目に来た台風15号は、関東地方を直撃して神奈川県西部が暴風域に入りました。檜洞丸の山頂近くは高い樹木が何本も倒れました。南風だったので、同じ向きに倒れていました。今年はブナハバチによるダメージがあったので、ブナにとってはダブルパンチです。右の写真ではツツジが根ごとひっくり返っています。尾根だけではなく、山腹斜面で何本も倒れています。ササが減り土壌も痩せていたので、根で支えきれなくなったのでしょうか。来年の花の時期は倒れて枯れたツツジの姿が無残でしょう。自然には逆えないものです。(倉持)



根ごとひっくり返ったツツジ



ブナが倒れ、登山道をふさぐ

秋の野山歩き

丹沢湖ビジターセンター

爽やかな秋晴れの9月中旬、お気に入りのハイキングコースを、自然観察の大先輩と二人で歩きました。足元には野菊やホトトギス、ツルニンジンなどの花が咲き、頭上にはヤマボウシやサルナシ、マツブサなどが美味しそうな実をつけていました。動物の痕跡も多く、サルナシをたくさん食べたテンの糞や、ぬかるみではシカやタヌキの足跡を見ることもできました。出会った全てのものをじっくりと観察し、気持ちのいい場所を見つけて、のんび



ツルニンジンの花の中

りお昼を食べたり、お茶を飲んだりしていると、知らぬ間に時間が過ぎてしまいました。ハイキングコースの終点までまだ2キロもあるというのに、辺りが暗くなってきました。予想外のことで、二人共懐中電灯もクマよけの鈴も持っていませんでした・・・月明かりを頼りに、手を叩きながら「イノシシ君、まだ出てこないでね」と歌いながら歩いていると、後方から明かりを付けた人が追いついてきて、親切にも私達の足元を照らしてくれました。でも「こんなに暗くなって明かりもないなんて！イノシシも出るんだぞ！」と、厳しく言われてしまいました。本当にその通りです、今回は運良く助けていただきましたが、本当に軽率だったと深く反省しています。秋の野山歩きはとても気持ちのいいものですが「秋の夕暮は釣瓶落し」時間にゆとりのあるコース設定、そして明かりと鈴を忘れずに！準備が整ったら、さあ楽しい秋の野山歩きに出かけましょう。(石原)



野山歩きの必需品
クマ鈴(左)、懐中電灯(右)

秋でも会える昆虫たち

丹沢湖ビジターセンター



エサキモンキツノカメムシ



カメムシを捕食するカマキリ

秋と言えば紅葉ですが、色づく木の幹や足元の落ち葉をじっくり観察してみると、たくましく生きる昆虫たちに出会えます。秋に昆虫たちに出会うには、何と言っても晴れた暖かい日がオススメです。

寒くなるといつの間にか室内に入り込んでいるカメムシ。晴れた日には活発に動き回ります。しかし、それを狙う捕食者が！カマキリです。コナラの根本で獲物を待ち伏せて仕留めたカマキリが、悠然と食事をしている光景に出会いました。クルクルとカメムシを持ちかえながらムシャムシャと食べていきます。武器であるカマ(前脚)が汚れると、お掃除することも怠りません。いっぱい栄養を蓄えて繁殖に備えているようです。

11月は鳴く虫の声も次第にか弱くなっていきますが、いなくなったわけではありません。樹上で生活しているサトクダマキモドキ(♀)

が湖畔のカエデの木で休んでいました。よく見ると後脚が1本あ1ません。後脚を犠牲にして、こちらはなんとか捕食者から逃れることが出来たようです。

森の中を歩いていると地面にトビナナフシがいました。普段は樹上で、枝などに擬態して生活しています。ナナフシが飛ぶ？と不思議に思われた方もいるでしょう。お馴染みのナナフシモドキ(通称ナナフシ)には翅がないのですが、このトビナナフシには翅があり、飛ぶことが可能なのです！と言っても飛ぶのは下手なようで、実際に飛んでいる姿を見たことはありません。どれも11月頃まで見られる昆虫たち。紅葉を楽しみながら昆虫観察もいかがでしょうか。(長澤)



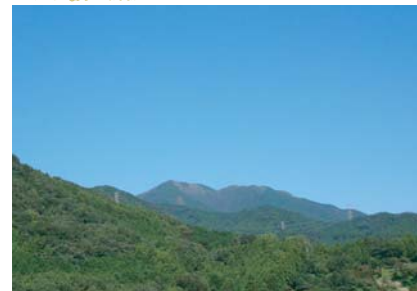
サトクダマキモドキ



トビナナフシ

晩秋の旅立ち！

秦野ビジターセンター



ビジターセンターからの眺め



ゲンショウコ



アカシ



ミズキ



キンミズビキ

すーっと吸いこまれそうな秋の空。ビジターセンターから三ノ塔、二ノ塔を眺め季節の移ろいを感じています。緑で覆われていた山も赤や黄色の色が混ざり、賑やかだった虫の音も静まり、爽やかな風も冷たい風へと変わっていきます。

そして秋も深まる頃、野山では木や草花が実や種を付け、次の世代へと繋げていきます。やがて熟した実や種はなるべく遠くへ旅立とうと、いろいろな工夫をして親元をはなれます。ゲンショウコやカタバミの種は乾燥するとはじけ、キンミズビキやヌスビトハギの種はカギ針のようなトゲを身にまとい動物にくっつき、カエデの仲間やシデの仲間は翼をつけて風に乗って飛んできます。そうそう熟した美味しそうな実は鳥や動物に食べられてしまいますが種は糞と一緒に落とされます。

丹沢の植物の実や種もそろそろ旅の準備が出来た頃でしょう。それぞれの植物がどんな工夫をして旅に出るか、実や種をじっくり観察するの面白いですよ。(石川)